

訳 者 あ と が き

1. ここに訳出紹介するのは、スタン G. デバーコウ、レスリー A. ワイテナー 共著『農業労働統計データの諸源泉（最新版）』農務省経済調査局農業・農村経済部、農業ハンドブック No. 658, 1986 年 8 月刊 (Agricultural Labor Data Sources: An Update, by Stan G. Daberkow and Leslie A. Whitener, Agriculture and Rural Economics Division, Economic Research Service, U.S. Department of Agriculture, Agriculture Handbook No. 658, Issued August 1986) である。

著者の 1 人スタン・デバーコウ氏は本書執筆時は合衆国農務省経済調査局農業・農村経済部所属、現在は同じく経済調査局天然資源部所属のエコノミスト、もう 1 人のレスリー・ワイテナー女史は現在、農業・農村経済部農村労働市場課所属のソシオロジストである。

2. 本書はアメリカ農業における就業、雇用、賃金の状況を示す多様な統計データが、それぞれどこからどのようにしてでてくるのか、それら相互の関連いかん、また、それらの間の相違ないしくいちがいは何に根ざすのかを統計データの諸源泉にさかのぼって詳説したものである。

アメリカ農業の労働力構成、雇用労働問題、労働者状態を解明するには、どこにどのような統計データが存在し利用できるのか、また、それらはどのような限界をもつものであるのかを統計利用者に教えてくれる。

3. これらについて解説を与えるなかで、著者はデータ源のもつ共通の難点として次の 4 点を指摘している。

すなわち(1)結果表章の地域的細別が限られていること、(2)サンプルサイズが小さいこと。(3)データ収集の回数が少ないこと、(4)調査結果に農業労働者の大きな部分が含まれていないこと、である。(1)は農業労働統計データの多くが、州ないしそれ以下のレベルにおいて利用不可能であることを指摘したもので、これは直接(2)と関連している。

とくに、近年のレーガンの「行革」による統計予算の削減のなかでサンプルサイズの縮小や調査内容の簡略化、報告回数の削減、結果報告の圧縮がつぎつぎと強要されている。著者の指摘するデータ源の難点の解決は一そうむずかしい状況である。

現在は、まさに Era of Dwindling Data Sources (データ源縮小の時代)——1983 年アメリカ農業経済学会年次大会共通テーマ——というにふさわしい。

さらに(4)は現在の農業労働統計データの体系が主としてメキシコからの膨大な不法入国農業労働者をとらえるものになっていないことを指摘したものである。

合衆国農業とくに果実・野菜部門をささえる決定的要素となっている証明書不所持の外

「国人労働者（undocumented alien workers）がアメリカの公式の統計データに殆んど含まれていないことは統計の信頼性にかかわる重大問題であって、統計データの利用上決して無視できない点である。

4. なお、本書の内容と直接に関連する報告資料として、日本統計研究所刊行の次の2つの翻訳資料もあわせて参照されたい。

(1) アメリカ農業労働者調査報告（1981年）〔The Hired Farm Working Force of 1981〕、統計研究参考資料No. 20、法政大学日本統計研究所、1984年12月

(2) アメリカ合衆国における農業労務請負制〔Farm Labor Contracting in the United States, 1981〕、統計研究参考資料No. 26、法政大学日本統計研究所、1986年12月

5. さいごに、日本語訳の本誌掲載を快諾された Leslie A. Whitener 女史および Stan G. Daberkow 氏に感謝する。なお訳出は喜多克己が担当した。